

# 大雨に伴う農作物等の管理対策

令和6年5月27日  
JA徳島県 営農指導部

- ◆ 気象庁によると、台風1号が太平洋上を北上し、台風の東側にある湿った空気が、日本付近にある前線に向かって入り込むことで、大雨の予報がされています。最新の気象情報を確認し、対策をしていただきますようお願いいたします。

\*大雨中は、非常に危険なので、用排水路には近づかないようにしましょう。

- 事故防止の観点から、圃場の見回り等については、気象情報を十分に確認し大雨後も注意して行ってください。
- 薬剤を使用する際には、ポジティブリスト制度への対応に配慮し農薬使用基準を遵守し、適時適切な使用に努めましょう。

## 1 水稲

- 1) 浸水、冠水した圃場では、できるだけ早く溝を切り、排水溝のゴミを除去し、濁水の排水に努める。
- 2) 暴風は、稲の表面から多量の水分を奪い、茎葉に損傷を与えるので水田に水を入れる。
- 3) いもち病などが発生する場合がありますので、適正防除に努めましょう。

## 2 野菜

- 1) 浸冠水した圃場は早急に排水に努め、適正水分に戻しましょう。
- 2) べたがけ被覆していた圃場はできるだけ早く資材を除去し、茎葉に付着した泥は水で洗い流しましょう。
- 3) 夏秋なす、胡瓜等果菜類は、風雨害による傷葉を除くとともに、各作物の防除基準に基づいて薬剤散布を行います。
- 4) 株元が露出したり、降雨により土壌が締っていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せをするとともに、畦全体を軽く中耕し通気性を良くしましょう。
- 5) 樹勢回復を図る場合は、薄目の液肥施用や葉面散布を行います。(肥料の流亡が考えられる場合は、樹勢回復後に速効性の肥料を追肥しましょう。)
- 6) 施設栽培では、速やかに換気を行い、天候回復後の高温障害を回避しましょう。

## 3 果樹

- 1) 溝切りや排水溝の清掃を行い、速やかな排水に努める。特に、果実が結実している、梨、もも、ぶどう、柿、みかん、すだち等は、早期排水と土壌乾燥に努め、冠水、湿害の発生を回避させましょう。
- 2) 折れた枝は、切り直して癒合促進剤を塗布する。主枝、亜主枝等の枝裂け部は、縄などで縛り癒合を促進する。
- 3) 倒伏樹は、立て直して支柱等に固定し、土寄せする。
- 4) かんきつのかいよう病、黒点病等は、風雨によって発生が助長されるので、防除基準に沿って適宜防除する。

## 4 花卉

- 1) 冠水した圃場は速やかに排水し、中耕を行い湿害による根傷みの回復をはかる。
- 2) 風雨による土の跳ね上げや冠水で汚れがある場合は水洗し病害発生を防ぎましょう。
- 3) 暴風対策で室内等に入れた苗等は天候回復後早めに戻し防風対策でべた掛けしたネット等除去する。
- 4) 転倒・転落した鉢は速やかに復旧手当を行ったのち、病害防除を行う。
- 5) 施設では、風が弱まったら速やかに換気を行い、天候回復後の高温障害発生を回避。
- 6) 湿害等で根が弱っている場合には、適期に液肥の葉面散布などを行います。